

防衛相 沖縄知事と会談せず

辺野古巡る溝浮き彫り

木原防衛相は24日、就任後初めて沖縄県を訪れた。防衛相は就任後初の訪沖の際に知事と会談するのが恒例だが、玉城デニー知事との会談は異例の見送りとなった。米軍普天間飛行場の辺野古への移設をめぐる国と沖縄の対立が続く中、両者の溝の深さが改めて浮き彫りになった。



4月の陸自ヘリ墜落事故現場近くで説明を受ける木原防衛相(中央)＝24日、沖縄県宮古島市

木原氏が就任後初の一島の石垣岡市で部隊を視察の訪問先に沖縄を選んだのは、対中国を念頭に、南西諸島防衛強化を重視する姿勢を示すためだ。24日に沖縄入りし、宮古

島、石垣岡市で部隊を視察し、岡市長と会談。しだのは、対中国を念頭に、南西諸島防衛強化を重視する姿勢を示すためだ。24日に沖縄入りし、宮古

防衛省幹部も「就任後すぐに会談するのが重要」と認めていた木原、玉城両氏の会談。見送りの理由について、木原氏は24日、記者団に「南西地域

の課題の中、まずは現場を自らの目で確認したかった。限られた日程で沖縄本島を訪問できなかった」と語った。

複数の関係者によると、防衛省は当初、両氏の会談を模索。沖縄県側も木原氏に提出する要望書準備していた。ただ、玉城氏はスイスでの国連会合出席から28日に帰国したばかりで調整がつかなかったという。

「辺野古移設問題をめぐり、国と沖縄県の間で緊張が高まっていることも背景にありそうだ。4日に最高裁で県の敗訴が確定。国は19日、玉城氏に対し、埋め立て工事のための設計変更申請を承認するよう求める「勧告」をした。この状況のもと、現時点で両氏が会うのは得策ではないという「あうんの呼吸」(防衛省幹部)も双方に

あったという。ただし、防衛相が初訪沖の際に知事と会談しないのは異例だ。第2次安倍政権以降に会談がなかったのは2回だけ。2013年は知事が病氣療養中のため副知事と面会、

防衛相就任後の沖縄初訪問の時期と面会した知事(2012年の第2次安倍政権発足以降)

防衛相名	防衛相就任	初訪沖	面会した知事名
小野寺五典氏	12年12月	13年1月	なし
江渡聡徳氏	14年9月	同月	仲井真弘多氏
中谷元氏	14年12月	15年5月	翁長雄志氏
稲田朋美氏	16年8月	同年9月	翁長氏
小野寺氏	17年8月	同月	翁長氏
岩屋毅氏	18年10月	同年11月	玉城デニー氏
河野太郎氏	19年9月	同月	玉城氏
岸信夫氏	20年9月	同年10月	玉城氏
浜田靖一氏	22年8月	同年9月	なし

※沖縄防衛局の資料などに基づく。単田文雄外相(当時)が17年に一時兼務した期間は除く
※小野寺氏の13年は仲井真氏が病氣療養中で副知事と面会
※浜田氏の初訪問先は与那国島。翌週に沖縄本島を訪ねて玉城知事と会談

木原氏の言動 過去に物議

沖縄県では、木原氏の動向に警戒感がにじむ。県幹部は、木原氏が昨年12月の安保関連3文書の改定に、与党実務者協会のメンバーとして関わったことに触れ、「防衛力強化にまっしぐらなイメージ。沖縄が抱える歴史、本土と異なる感覚を理解できるかどうか」。

木原氏の過去の言動も不信感を招いている。自民党青年局長だった15年、自身が代表を務める勉強会に招いた作家の百田尚樹氏が「沖縄の二つの新聞社は絶対につぶさなアカン」と語ったことなどが問題視され、青年局長を更迭された。沖縄全戦没者追悼式で安倍晋三首相(当時)がヤシを

「明らかに動員されていた。主催者は沖縄県」などと発言していたことも明らかになった。玉城氏は、辺野古移設をめぐる防衛省の設計変更申請を承認するか否かの判断を迫られている。玉城氏を支える県議の一人は「国と県の対話が求められる大事な時期だけに厳しい人事だ。歴代政権は「沖縄に寄り添う」姿勢をアピールしながら、全く民意を顧みてこなかった。そうした態度にさらに拍車がかかるのではないかと語った。(田嶋隆雄、小野太郎)

政府は、国内の米軍専用施設の7割が集中する沖縄で自衛隊の増強を急

受けたことについて、

22年は与那国島の部隊編成の要請に改めて沖縄本島を訪れ、知事と会談している。